

日本体育・スポーツ・健康学会（JSPEHSS） 理事会通信（2024 年 11 月 11 日号）

会員のみなさま

JSPEHSS 常務理事の深澤 浩洋です。

爽りの秋、そしてそれを堪能するまもなく、このところの冷え込みに秋（とき）の過ぎゆく早さを実感しております。会員の皆様におかれましては、日々の研究・教育その他の活動に精を出されておられることと存じます。また、本学会における諸活動へのご参画とご協力に對しまして感謝申し上げます。

さて、10月26日に第11回理事会が開催されましたので、その審議・報告内容をもとに理事会通信をお届けいたします。議事次第は以下の URL からご覧いただくことができます。

<https://taiiku-gakkai.or.jp/board-news-2>

□第74回大会（福岡大学）について

8月29日～31日に福岡大学で開催された第74回大会について、主管校の福岡大学よりご報告をいただきました。参加登録者数は前年並みの約2000人、また、オンラインを併用しての開催でしたが、会場へ足を運ばれた参加者は600人を超えました。今大会は、福岡大学のスタッフの方々の熱意と、先が見通し難い状況の中、参加形態を冷静にご判断いただいた会員の皆様の学会大会に対する強い思いとでもって作り上げた大会として、語り継がれ記憶に残ることと思います。大変難しい判断でしたが、中止にすることなく実施したことにより、次年度以降への教訓を含め、本学会の経験値を高めることになりました。改めて関係した方々や会員の皆様に感謝申し上げる次第です。

□第75回大会（日本体育大学）にむけて

2025年8月27日～29日に日本体育大学・世田谷キャンパスで開催される第75回大会のテーマと本部企画について議論されました。大会テーマは、「今改めて問う、身体の科学と文化の価値一次世代を切り拓く未来創造」に決まりました。また、このテーマに沿った本部企画シンポジウム2件の素案が示されると共に、3日間のプログラムの大枠についての検討がなされました。テーマ別研究発表の増加傾向と専門領域からのご要望を踏まえ、第74回大会の枠組みをマイナーチェンジすることとしました。今後、関係各所で細部の検討を重ね、併せて各専門領域にも照会を行ってまいります。

□領域横断特別委員会

当委員会委員長を務めておられる会長から理事会に対し、何点か検討の依頼が示されました。①テーマ別シンポジウムにおける非会員の登壇枠（現行1企画あたり1名）を登壇者

の半数以下へ拡大、②外部組織とのシンポジウムの共催・講演、③部会員では依頼が困難な登壇者の招聘、④テーマ別研究発表の時間枠拡大、です。①～③は、社会課題への接近やより広範な関連分野の方々（省庁やスポーツ団体役員、著名な他分野の研究者等）への依頼をしやすくするためであり、④は、発表者の発表のし易さやプログラムの組み易さを念頭においたもので、理事会では前向きに対応していくこととしました。

#### □2024 年度国外学会参加者補助金

選考特別委員会での対象者選考を経て理事会に報告されました。16名の申請に対し、8名が採択されました。8名という枠が設定されていることから、全ての申請者のご期待に添うことが叶わず心苦しい限りですが、口頭発表を行う会員が優先的に選考される傾向にありますので、次年度の参考にしていただけますと幸いです。これからも若手研究者の国際的な活躍を後押ししてまいります。

#### □2028 年度第 78 回大会主管校の公募

第 75 回大会（日本体育大学）、第 76 回大会（北翔大学）、第 77 回大会（東京学芸大学）に続く大会の主管校を募っております。詳細につきましては、下記リンクをご参照ください。前向きにご検討いただける大学をお待ちしております。どうぞよろしくお願いいたします。  
<https://taiiku-gakkai.or.jp/imnews/11156>

次年度学会大会のテーマが固まりました。このところの自然災害、国際的な政情不安定、社会的分断など世の中のうねりや変化の中で、体育、スポーツ、健康に関係する立場から何をどのようにみて何ができるのか。身体を手がかりに、ものごとの本質（骨格）を多様な角度から考えてみることで豊かな知見を生み出すことが期待されます。

会員個々のレベルではできないことが組織として可能になりますので、アイデアやご意見等ございましたら、お気軽にお寄せいただけますと幸いです。

以上